

性も人それぞれ



多様な性について考えよう

生まれてきたときの性別である「からだの性」と自分が認識している「こころの性」が、一致しない人がいます。また、「男だから女が好き」「女だから男が好き」とは限りません。性のあり方は人によりさまざまです。一方的な見方で相手を判断してしまわずに、多様性を受け入れることでだれもが自分の性のあり方を尊重され、自分らしく生きられる社会に、みんなでしていきたいものです。

性のあり方とは？

- からだの性：生物学的な性
- こころの性：性自認
- 好きになる性：性的指向

私たち人間は、だれ一人として同じ人はいません。顔や性格、体つきなどがみんな違うように、「性のあり方」も人それぞれ違います。そして、だれもが、自分の「性のあり方」を尊重される権利を持っています。

LGBTって何？

- L: レズビアン…女性で女性が好きな人
- G: ゲイ…男性で男性が好きな人
- B: バイセクシュアル…同性も異性も好きになる人
- T: トランスジェンダー…からだところの性に違和感がある人、からだの性別と異なる性別で生きる人、生きたい人

※LGBT以外にも、男女のどちらにも恋愛感情を持たない人(A:アセクシュアル)、性自認が男女のどちらにも当てはまらない人(X:Xジェンダー)、自分の性を決められない・分からない人(Q:クエスチョニング)など、様々な人がいます。

多様な性について考える

最近、「LGBT」という言葉がよく使われるようになってきました。調査方法などによっても異なりますが、LGBTなどに該当する人たちは人口の約9%と推定する研究が発表されています。今まで気づいていなかったり、知らなかっただけかもしれません。

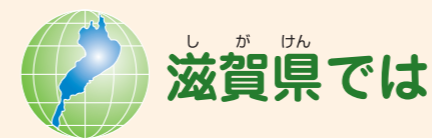
性のあり方に対する世間の理解は世間の理解はまだ十分ではないため、周囲の偏見や誤解をおそれて本当の自分を打ち明けられず、学校で、職場で、社会でさまざまな生きづらさを抱え、苦しんでいる人がいることを理解することが必要です。

多様性が認められる社会

人に個性があるように「性のあり方」もさまざまであることを理解し、笑いのネタにしている人や、侮辱したり、傷つくような言葉を使っている人がいたら、「それはよくない」と伝えていきましょう。たとえ傷ついていても、本人が声をあげるのは難しいものです。だれもが自分らしい生き方を尊重され、安心して過ごすことができるような言動を心掛けましょう。

また、カミングアウト（性的指向や性自認などについて告白したり、公にすること）されることがあれば、それはあなたを信頼してのことです。しっかりと本人の気持ちを聴くとともに、アウティング（本人の了解を得ずに性的指向や性自認を他人に暴露する行為）は絶対に行わないようにしましょう。

どうしてほしいかは人によって違います。『困ったことがあれば支えるよ』という姿勢を示すことが大切です。



2016年（平成28年）3月に改定した「滋賀県人権施策推進計画」に基づき、LGBTなどの当事者に対する社会の関心と理解を深めるための啓発を進めるとともに、多様な性のあり方への配慮を目的に、県が県民のみなさまに提出をお願いする申請書等の性別欄の記載について見直しを実施しています。

また、自身の性のあり方についての悩みを抱える児童生徒に対しては、学校においてきめ細やかな対応が必要なため、児童・生徒の心情等に配慮した相談・支援等の取組を進めています。